

防災・減災のページ

第105回巡回ワークショップ @松島高

むすび塾

観光客の津波避難

河北新報社は7月15日、通算105回目の巡回ワークショップ「むすび塾」を宮城県松島町の松島高で開いた。観光ボランティアガイド研修の一環で、津波を想定した避難誘導訓練に取り組み観光科の1・3年生9人と、助言者として松島観光協会の志賀寧さん(69)が参加。活動の成果と課題、観光客の避難を促すアイデアを語り合った。

生徒は東日本大震災の自分

や家族の体験を振り返り「停電と断水が続く、何度も水くみに並んだ」「家族と連絡がつかなかった」などと報告。東松島市で津波に遭った1年奈良坂千夏さん(16)は「足元に水がたまり程度の津波が怖くて動けず、消防団の父の先輩が担いで避難させてくれた」と語った。

志賀さんは震災後、塩釜地区消防本部消防長として災害対応に当たった。生徒たちに「皆さんが覚えておける震災の経験は必ず将来の防災に役立つ。忘れずに語り継ぎ、次の災害に生かしてほしい」と呼びかけた。

避難誘導訓練は、生徒がガイド役と観光客役に分かれて実施する。2年の斎藤優空さん(16)は「ガイド、観光客と異なる視点で行動してみてもいい」と話す。誘導をする際は、災害時の季節や天候、観光客の体調といったことに配慮する必要がある」と報告

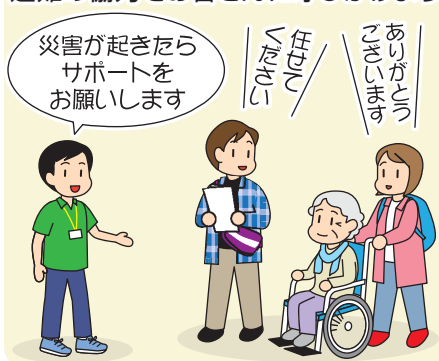
イラストで易しく誘導



観光客に避難を促すアイデアを発表する観光科の生徒
7月15日、宮城県松島町の松島高

観光地の避難のアイデア

避難の協力をお客さんに呼びかけよう



避難誘導はやさしい日本語で



定期的に避難路を掃除しよう



観光名所とともに避難場所もガイド



監修 減災・復興支援機構

イラスト さとうあけみ

2年生は地震と津波、避難方向のピクトグラムを提案に入れた。佐藤美沙希さん(16)は「地震や津波を知らない外国人に危険を伝えることを考えた。通信が使えない時のため、チラシを店の入り口に置いたり、土産用の袋に入れたりして目に付くようにしたい」と説明した。



生徒のアイデアを基に作成した避難を促すイラストの試作品

ガイド・観光客役で訓練

松島観光科は、地域の観光資源である日本三景松島の地の利を生かし、観光関連産業に関わる人材育成を目的に2014年4月に開設された。募集定員は80人。観光、旅行、地域の歴史を学ぶ授業のほか、販売、ホテルの実習、田植え・稲刈り体験、祭りの運営にも取り組む。観光ボランティアガイドの実習では、県外の小中高生や団体客のガイドを引き受けている。20年度からは、観光名所を巡っているさなかに津波が発生したと想定し、避難誘導訓練も始めた。今年5月30日に3年生、6月25日に1・2年生が、県の新たな津波浸水想定に基づき訓練に臨んだ。ガイド役が観光客役を先導し、瑞巖寺近くの松島防災センターに避難。避難者の人数や健康状態を確かめた後、さらに高台にある三十八避難所への2次避難を行った。

新たな浸水想定に対応



避難誘導訓練で2次避難場所を目指し、坂を上る松島高観光科の生徒たち＝5月30日、宮城県松島町松島

日用品に防災情報印刷 有効

生徒向けの災害時初動マニュアルは災害が起きた後、判断に迷ったときに見て、行動の参考にしてほしいと思って監修した。まず災害対応の基本を身に付けて自分の命を守った上で、助ける側に回ってもらいたい。

避難誘導のイラストは世界共通のピクト



松島観光協会会長 志賀寧さん(69)

グラムを入れると、文字を使わなくても行動や避難の方向が伝えられる。塩釜地区消防本部時代に火の用心を広めるため、防火の注意点をトイレトペーパーに印刷したことがある。防災情報を伝える手段として、普段、何度も目に触れるものに印刷するのは有効だ。

東日本大震災をはじめとする自然災害の被災体験を振り返り、防災の教訓や課題を考えてみませんか。町内会や学校、職場など少人数の集まりが対象です。開催費用は無料。随時、開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(21)1591。

■むすび塾に参加して

●東京で役立てる 観光客が一目で分かる避難ツールを作りたい。トイレトペーパーやレシートの裏に印字する方法は勉強になった。年に1度、家族で防災リュックの確認をしている。卒業後、東京で生活する予定で、学んだことを災害への備えに生かしたい
＝3年・泉田瑠さん(17)

●接客業に生かす 外国人や子どもでも分かるような避難経路を示すイラストを、卒業までに形にしたい。家では定期的に家族と避難場所を確認している。接客業に就くことが将来の目標。お客さまの安心安全を常に考え、学んだことを役立てたい
＝3年・伊藤圭菜さん(18)

●防災の発信継続 災害はいつでも起こり得るので、高校生として防災の発信を続けたい。子どもやお年寄り、外国人に寄り添ったガイドができるように常に工夫している。ウエディングプランナーを目指している。幸せとともに防災の大切さも届けていきたい
＝3年・深田璃璃加さん(17)

●貴重な意見共有 違う学年の意見が聞けて貴重な機会だった。3年生は経験が豊富、1年生は視点が新鮮で、今後に生かせそう。防災情報をトイレトペーパーなどに印刷したり、観光客にハザードマップを渡したりするアイデアはとてもいいと思う
＝2年・今野李音さん(16)

●地理の把握 重要 訪れた人に安心して観光を楽しんでもらうには、事前の備えが必要だと感じた。松島は海も川も山もある。避難するときは、地理を把握しておくことが重要になる。知識をしっかりと身に付け、お客さまを安全に誘導できるようにしたい
＝2年・斎藤優空さん(16)

●身守る手段多く 災害から身を守る手段、情報がたくさんあることを知り、災害が発生したときに、どう動けばいいのかわかった。災害対応をまとめた資料があると、災害時に混乱を避けられると感じた。むすび塾の経験を観光科の活動に役立てたい
＝2年・佐藤美沙希さん(16)

●車いす 扱い学ぶ 車いすの人をスムーズに避難誘導できるように、車いすの扱い方を事前に知っておくことが大事だ。みんな考えた、避難方向や避難の大切さが分かるイラストを改良して、外国人も耳が聞こえない人も迷わずに避難できるようにしたい
＝1年・菊田姫和さん(16)

●マニュアル作る 2、3年生が考えたイラストを活用し、災害時の観光客向け初動マニュアルを作ることができるのではない。イラストを宿泊施設に張ったり、レシートの裏に印字したりするのもいいと思う。卒業までに、ぜひ実現させたい
＝1年・佐々木あすかさん(15)

●SNS使い周知 訓練では雨が降ると滑って危ないなど、危険を伝えながら誘導することを学んだ。観光客が安心できるようにガイドをしたい。避難誘導のイラストは顔出しパネルにしてSNS(交流サイト)で発信してもらえば、多くの人に周知できる
＝1年・奈良坂千夏さん(16)